

～フェイクニュースを解決するために～

現在の世の中は利便性に溢れている。その一方で、この利便性が引き起こした課題は1つに留まらない。『フェイクニュース』もその課題の一つである。

『フェイクニュース』とは、定まった定義はないが、何らかの利益を得ることや意図的に騙すことを目的とした「偽情報」のことを主に言うが、単に誤った情報である「誤情報」や「デマ」なども含まれる。

『フェイクニュース』の中でも「ディープフェイク」ではAI技術や機械学習の技術を悪用して作られた偽の情報のことをいう。

法務省では、SNSは誰もが容易に発信できることから、正しくない情報も沢山あるため、情報の発信元を確かめるなどして呼びかけを行っている。

出典：法務省ウェブサイト

https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/special/fakenews/

誤った発言などはもとの発信元を確認したり、その投稿や情報以外のものを調べることで正しい情報が見つかるかもしれないが、ディープフェイクの技術を利用した動画の場合、拡散された時、どの動画にもこの技術が使われているのではないかと思い、どれがもとの動画なのか、正しい動画なのか分からなくなるのではないかと考える。

ここ最近では、政治活動に大きな影響を与える『ディープフェイク』技術が問題になっている。

ディープフェイクの例：著名人等の顔を複製し、声も本人そっくりに合成されるため、一般人は偽動画とは気づきにくい。日本では首相のディープフェイク動画がネット上にあがり、本人と勘違いするような首相のコメント動画があげられ問題となった。

このような「ディープフェイク」の解決策として『生体認証』を提案する。

『生体認証』とは、人間一人ひとりで特徴の異なる部分（顔、目の瞳、指など）から、前もって登録しておいた個人情報と一致するかどうか確かめる手段のこと。

生体認証の種類は、現在の時点ですでに使用されているものや現在研究中のものもあり、今後多くの生体認証が開発され、利用される世の中になっていく事が容易に想像できる。

生体認証の一番のメリットは、自分の体のパーツが暗証番号のようなもののため、パスワードなどをあらたに決めたりすることが不必要であるということである。

私が特にディープフェイク動画の解決に役立つと考えているものは、『生体認証』の中でも「虹彩認証」と現在少しづつ利用されてきている「声紋認証」である。

「虹彩認証」あらかじめ瞳の虹彩と呼ばれる部分の形などの特徴を登録しておき、認証するときに、その人物かどうか虹彩の特徴から確かめる手段のこと。デジタル端末での支払いなどで使われている。

「声紋認証」は文字通り音声を利用した生体認証のことで、あらかじめ登録しておいた音声の特徴から認証する際に本人かどうか音声から分析するものである。現時点はまだ広い範囲での普及には至っていないが、今後幅広い分野で利用されることが期待されている。

この二つの『生体認証』を組み合わせることで「ディープフェイク」は解決されると考えた。その方法は虹彩認証と声紋認証を搭載した、動画に出てくる人物と今から声や虹彩を動画で録画する人物が同一人物であるか数値で確認できる、“なりすまし動画防止アプリ”を作り、デマやなりすましの動画が投稿された時、その動画とその動画に出てくる人物（被害者）との虹彩認証と声紋認証を行い本人でないということをアプリで認証する。その認証している所を動画に収め、その人の公式SNS等に投稿することで本人でないということが証明されるとともに、なりすまし動画による炎上は解決されると考えた。

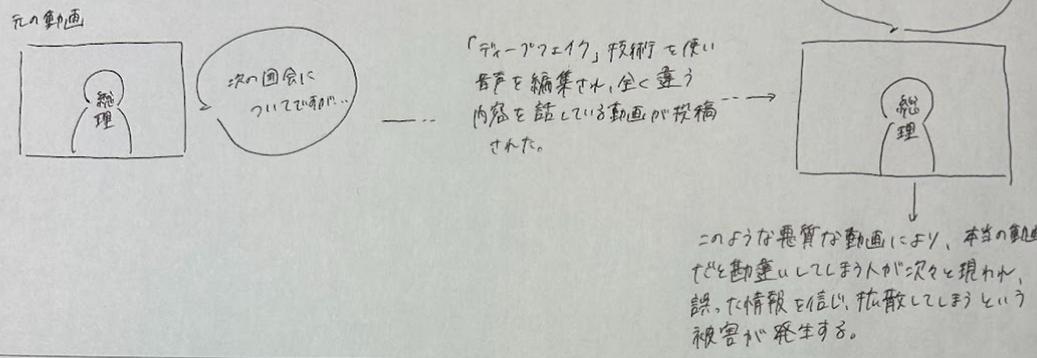
特に政治家等のディープフェイク動画は政治不信を引き起こしかねないので、このような政治家等のディープフェイク動画を投稿した者には罰金など何かしらの罪を着せるという法律をつくることを提案する。

この方法が開発された場合、アプリが出来るため、テレビ等で活躍する著名人はもちろんだが、SNSを活動の拠点にしている著名人、一般人も「この動画はデマである」ということの声上げやすいということがメリットだと考える。

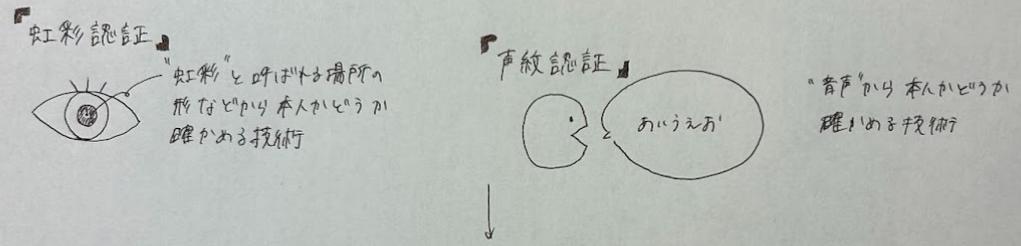
また、多くの人を利用するSNSであるからこそ、誰もが安心してSNSを利用出来るようにするために、もしもなりすましが起きてしまったときに、誰もが平等に声を上げることが出来るということが私が考える情報の健康である。

以下私の考える『生体認証』による「ディープフェイク」の解決方法の図

「ディープフェイク」技術に関する課題の例
 問題にたいして首相のコメント

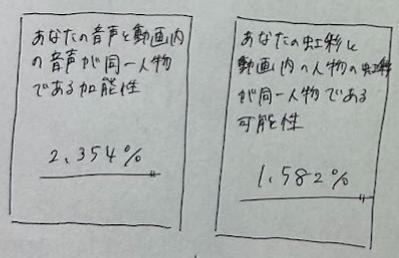


「ディープフェイク」技術を解決するための解決案



この2つを組み合わせると「なりすまし動画防止アプリ」を作成可能。

例) どちらもスマートフォン画面



政治家等の人物を用いて「ディープフェイク」技術を使った動画を投稿した者には罰金等の罪を科せらる。

一般人・著名人(芸能人等)は、この判定を行う、という様子を動画におさめる。
 ↓
 その動画をSNSに投稿(公式SNSもしくは自身のSNS)

- ・本人の動画ではないという証拠を誰かに提供できる。
- ・「なりすまし動画」による「炎上」をおさげられる。
- ・一人ひとりが「録音」に情報である、と声をあげることが出来る。